

“ヒルズの未来形” 虎ノ門・麻布台プロジェクト

街の名称は「麻布台ヒルズ」に決定

～「ヒルズ」がつながり、都心部に新たな文化・経済圏を創出～

森ビル株式会社（東京都港区、代表取締役社長：辻 慎吾）および日本郵便株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長：衣川 和秀）が参加組合員として参画し、虎ノ門・麻布台地区市街地再開発組合（東京都港区、理事長：曲谷健一）が推進する「虎ノ門・麻布台プロジェクト」（虎ノ門・麻布台地区第一種市街地再開発事業）の街の名称が「麻布台ヒルズ」に決定しました。



麻布台ヒルズ(イメージ)

©DBOX for Mori Building Co.

都心の真ん中に“ヒルズの未来形”が誕生

名称に冠する「ヒルズ」とは、アークヒルズ、六本木ヒルズ、虎ノ門ヒルズなどに代表されるように、森ビルが地元の方々と長い歳月をかけて創り、育んできた、世界を惹きつける“街”のブランドです。徒歩圏内に多様な都市機能を高度に複合させた“コンパクトシティ(都市の中の都市)”を実現し、開発と運営(ディベロップメントとタウンマネジメント)を一気通貫で行うことで、時間の経過と共に“都市の磁力”を高めています。

「ヒルズ」という街は、住み、働くだけでなく、遊び、学び、交流し、憩う場所があり、それぞれの街ごとに個性的で豊かな文化があります。”緑に包まれ、人と人をつなぐ「広場」のような街 - Modern Urban Village”をコンセプトとして誕生する「麻布台ヒルズ」は、森ビルがこれまでの「ヒルズ」で培ったすべてを注ぎ込んだ「ヒルズの未来形」として、2023年に都心の真ん中に誕生します。

「ヒルズ」がつながり、都心部に新たな文化・経済圏を創出

「麻布台ヒルズ」は、「アークヒルズ」に隣接し、「文化都心・六本木ヒルズ」と「グローバルビジネスセンター・虎ノ門ヒルズ」の中間に位置します。このエリアを含む港区は、緑豊かなうえ、外国大使館、外資系企業、ホテル、文化施設、医療機関、インターナショナルスクールなどが多数立地し、外国人居住者数も圧倒的に多く、世界から人・モノ・金・情報を惹きつける「国際新都心」として極めて高いポテンシャルを有しています。「麻布台ヒルズ」が要となり、既存のヒルズと連携・融合することで、都心部に新たな文化・経済圏を創出します。

街のコンセプトを体現したロゴデザイン

「麻布台ヒルズ」のロゴには、“緑に包まれ、人と人をつなぐ「広場」のような街 - Modern Urban Village”のコンセプトを体現したデザインを採用。軽やかなオリジナルフォントと、自然を象徴する緑のラインを基本としながら、場所やメディアによって柔軟に変化し、街全体をつなぐアイデンティティとして機能します。

森ビルは、2023年の竣工に向けて、引き続き「麻布台ヒルズ」プロジェクトを推進し、国際都市・東京のさらなる磁力向上に貢献してまいります。

【本件に関してのお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 秋葉・牛込

TEL : 03-6406-6606 FAX : 03-6406-9306 E-mail : koho@mori.co.jp

## 添付資料①: 「麻布台ヒルズ」のロゴデザインについて

「麻布台ヒルズ」は、「緑に包まれ、人と人をつなぐ「広場」のような街 - Modern Urban Village」を街のコンセプトに、「Green & Wellness」をテーマに掲げています。これらを受けて、街のロゴデザインにおいても、「個を尊重しあえること」「許容の精神」「自由で自然でいられること」「柔軟な姿勢」などの考え方を大事にしました。

「麻布台ヒルズ」のロゴは、軽やかなオリジナルフォントと、自然を象徴する緑のラインを基本としながら、場所やメディアによって柔軟に変化します。様々な人々や価値観を受け入れて、時の経過とともに多様性を増しながら育まれる街のロゴとして、街全体をつなぐアイデンティティーとして機能していきます。

「麻布台ヒルズ」のロゴデザインは、アートディレクター/グラフィックデザイナー 上西祐理さんが手がけました。

### ■ベース書体

# AZABUDAI HILLS

### ■ロゴバリエーション (例)



# AZABUDAI HILLS

### ■オリジナルフォント

ABCDEFGHIJ

KLMNOPQR

STUVWXYZ

0123456789, . ! ? &

## 添付資料②: 「麻布台ヒルズ」について

「麻布台ヒルズ」は、「アークヒルズ」に隣接し、「文化都心・六本木ヒルズ」と、「グローバルビジネスセンター・虎ノ門ヒルズ」の中間にあり、文化とビジネスの両方の個性を備えたエリアに立地しています。約8.1haもの広大な計画区域は圧倒的な緑に包まれ、約6,000 m<sup>2</sup>の中央広場を含む緑化面積は約2.4haに上ります。

延床面積約861,500m<sup>2</sup>、オフィス総貸室面積213,900m<sup>2</sup>、住宅戸数約1,400戸、A街区タワーの高さは約330m、就業者数約20,000人、居住者数約3,500人、想定年間来街者数2,500~3,000万人で、そのスケールとインパクトは六本木ヒルズに匹敵します。また、国際水準のオフィスや住宅、商業施設に加え、アマンとのパートナーシップによるホテルブランドレジデンス「アマンレジデンス 東京」や、世界初のアマンの姉妹ブランド「ジャヌ」のホテルのほか、50ヵ国以上、約700人の生徒が在籍する都心最大規模のインターナショナルスクール「ブリティッシュ・スクール・イン東京」、お台場で人気を博した「森ビル デジタルアート ミュージアム: チームラボボーダレス」など、豊かな都市生活を実現する多彩な機能も備えます。

### “Modern Urban Village”を支える「Green」と「Wellness」

「麻布台ヒルズ」のコンセプトは「緑につつまれ、人と人がつながる『広場』のような街 “Modern Urban Village”」。そして、このコンセプトを支える2つの柱が「Green」と「Wellness」です。圧倒的な緑に囲まれ、自然と調和した環境の中で、多様な人々が集い、人間らしく生きられる新たなコミュニティの形成を目指します。

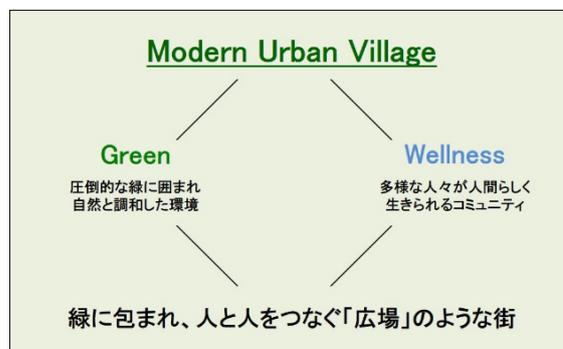
「麻布台ヒルズ」では、はじめに人の流れや人が集まる場所を考え、街の中心に広場を据えて、シームレスなランドスケープを計画。その後、3棟の超高層タワーを配置しました。これは、まず建物を配置し、空いたスペースを緑化するという、従来の手法とは全く逆のアプローチです。高低差のある地形を生かして、低層部の屋上を含む敷地全体を緑化することで、都心の既成市街地でありながら、約6,000m<sup>2</sup>の中央広場を含む約2.4haの緑地を実現しました。水と緑がつながるランドスケープを整備し、自然あふれる憩いの場を創出します。また、街全体で「RE100 (Renewable Energy 100%)」に対応する再生可能エネルギーの電力を100%供給します。世界最大規模の登録面積となる「WELL認証」や「LEED-ND認証」、「LEED-BD+C認証」の予備認証も取得しています。

加えて、慶應義塾大学病院予防医療センターを核として、スパやフィットネスクラブ、レストランやフードマーケットといったさまざまな施設のほか、広場や菜園などもメンバーシッププログラムやサービスで結び、この街で住み、働くことのすべてが「ウェルネス」に繋がる仕組みの構築を目指します。

「麻布台ヒルズ」では、都市の脱炭素化、生物多様性の保全、省エネルギー化、真に豊かな健康等、世界中が頭を悩ませている様々な課題に対する1つの解を提案します。



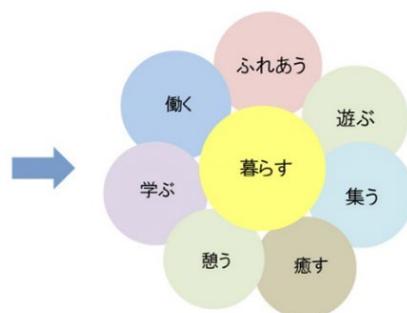
約 6,000 m<sup>2</sup>の広さを誇る緑豊かな中央広場(イメージ)



コンセプトの柱「Green」と「Wellness」

### 人の営みがシームレスにつながる街

「麻布台ヒルズ」は、人々の営みがシームレスにつながる街になります。オフィス、住宅、ホテル等の施設ありきで都市を設計するのではなく、施設の垣根を取り払って、人の営みから都市づくりにアプローチしました。この街では、「暮らす」「働く」「集う」「憩う」「学ぶ」「楽しむ」「遊ぶ」等、人々の様々な営みがシームレスにつながり、人と自然とが調和し、人と人がつながり、刺激しあいながら創造的に生きられる新しい都市生活を実現します。様々な施設が共に連携し、人々に新たなライフスタイルを提案することで、緑豊かな街全体が学びの場となり、仕事場となり、我が家となり、遊び場にもなります。



## プロジェクト概要

事業名称	: 虎ノ門・麻布台地区第一種市街地再開発事業
事業者	: 虎ノ門・麻布台地区市街地再開発組合
区域面積	: 約 8.1ha(施行地区面積)
敷地面積	: 約 63,900 m <sup>2</sup> (約 19,330 坪)
延床面積	: 約 861,500 m <sup>2</sup> (約 260,000 坪)
主要用途	: 住宅(約 1,400 戸)、事務所(約 213,900 m <sup>2</sup> )、店舗(約 150 店)、ホテル(約 120 室)、 インターナショナルスクール(約 14,000 m <sup>2</sup> 、ブリティッシュ・スクール・イン・東京(予定)) 中央広場(約 6,000 m <sup>2</sup> )、文化施設(約 9,000 m <sup>2</sup> )、予防医療センター(約 3,600 m <sup>2</sup> )
緑化面積	: 約 2.4ha
駐車場	: 約 1,880 台
事業費	: 約 5,800 億円
着工	: 2019 年 8 月
竣工	: 2023 年(予定)

## 【配置図】



## 【立面図】

